

行政視察報告書

委員会名	教育民生委員会
派遣委員	委員長 川辺 隆 副委員長 匹田 久美子 委員 吉岡 勲 委員 河野 巧 委員 安東 鉄男 委員 甲斐 尊
日 程	令和5年10月18日(水)
視 察 先	兵庫県養父市
調査項目	スクールバスの混乗利用について

1. 調査目的

養父市では、平成20年からスクールバス・コミュニティバス・路線バスの混乗やコミュニティバスをスクールバスとして一体化した活用をしており、特に「わいわいバス」と呼ばれるコミュニティバスは、路線バス、福祉バス、専用スクールバスと時間帯によって様々な顔があり、地域に密着した市民の交通手段として効果的に活用されています。バスの一体化及び混乗化に向けた取組について養父市にご教示いただき、白杵市内の小・中学生のために便利で安全な通学手段が増えるよう調査・研究を行いました。

2. 調査内容

(1) 視察先の概要

養父市は、平成16年4月1日、兵庫県養父郡の八鹿町・養父町・大屋町および関宮町の4町が合併して成立しました。人口は22,129人、世帯数8,388世帯(令和2年国勢調査より)、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、面積は422.91平方キロメートルで、兵庫県の5.0%、但馬地域の19.8%を占めています。

市の東部を一級河川円山川が南東から北東の方向に流れ、その支流の八木川に沿って八鹿、関宮地域が、大屋川に沿って養父、大屋地域が位置しています。西部には県下最高峰の氷ノ山や鉢伏山、ハチ高原、若杉高原が、北部には妙見山がそびえるなど、雄大で美しい自然に囲まれています。

(2) 調査結果

養父市は、児童・生徒数は1,086人と少子化が進み、学校統合を図るうえで、児童生徒の通学方法を整備し安心安全な対策を講じることを条件とし、平成19年度から遠距離通学児童生徒の補助に関する条例を制定し、平成20年から、コミュニティバスや路線バスをスクールバスとして活用しています。さらに、持続可能な公共交通のあり方を模索していくために、地域において法人格を有する「交通連合」を、沿線自治体と事業者

などで組織し、事業運営のあり方について、自治体が関与できる仕組みづくりを行っていました。

バスの利用方法としまして、朝の登校時は路線バスやコミュニティバスを利用し、夕方の下校時にはスクールバスを利用しています。2023年度のバス通学の対象児童は315人、対象生徒は195人で令和4年度の実績では、スクールバス7台（バス会社所有3台・市所有4台）に加え、路線バス14台（バス会社所有）、コミュニティバス5台（市所有）の計26台を運行していました。通学助成事業について、おおむね2km以上を対象としており、バスの定期券全額助成を行っていました。

中学生の自転車通学も、距離に応じて通学費の助成を行っており、2km以上から距離に応じて7,000円から12,000円の補助を行っていました。

さらに、最近では交通手段の確保を図るため、国家戦略特別区域自家用有償観光旅客等運送事業を取り入れライドシェアと呼ばれる自家用自動車による交通手段の確保にも取り組んでいました。

3. 委員会の所感

今後、小・中学校の適正配置について、色々な統廃合のパターンが検討されると思いますが、バスによる通学支援を考えた場合、小中一貫校の方が、1か所から放射状に送迎できる利点があると感じました。また、通学費の全額助成やスクールバスの運行でかなりの財政支出があると感じるが、徒歩通学の児童・生徒との経済的な負担の差が小さくなる点に関しては参考にすべきだと思いました。

白杵市の将来を担う児童・生徒が安心して学校へ通えるよう、通学における交通手段の整備や市民の通勤・移動に関する教育委員会部局と市長部局にまたがるスクールバスおよびコミュニティバス、路線バス等（タクシー含む）の連携は必要であり、課を横断した協議が重要になってくると感じました。

4. 視察状況

